

## 平成20年度第1回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成20年9月12日（金） 14時00分～15時30分
開 催 場 所	いわき市文化センター 2階 第1会議室
出 席 委 員	大川会長、飯田委員、石川委員、遠藤委員、岡田委員、神崎委員、佐藤委員、鈴木（正）委員、鈴木（司）委員、武田委員、長沼委員、山野辺委員、藁谷委員
事 務 局	生活環境部 環境整備課 吉田浩部長、緑川次長、吉田寿課長、澤田主幹、遠藤リサイクル係長、稲野邊環境整備係長、佐藤環境施設係長、園部主査、草野事務主任、中野主事
議 題	1 平成19年度第3回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案）について 2 協議事項 (1) 平成19年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績 (2) その他
配 布 資 料	① 平成19年度第3回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案） ② 資料「平成19年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績」 ③ 参考資料 平成20年度一般廃棄物処理実施計画 ④ 参考資料 ごみ減量・リサイクル情報誌「クリンピーのこえ」Vol.19

### 主 な 審 議 内 容

#### 【会議の進行方法について】

#### 1 新委員の紹介

新任の遠藤周壽委員（いわき市行政嘱託員（区長）連合協議会副会長）、山野辺雅久委員（福島県いわき地方振興局 県民部県民生活課長）が事務局から紹介された。

#### 2 会議の成立等について

##### (1) 会議の成立

事務局から、「委員18名中13名の出席があり、いわき市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第31条第2項の規定による過半数を満たしており、会議が成立していること」が報告された。

##### (2) 審議の公開

公開による審議について、委員から承認された。

##### (3) 議事録の記述形式

議事録の記述形式については、「要点記述方式」によることが承認された。

##### (4) 副会長選出

退任した渡邊莞爾前副会長の後任として、遠藤周壽委員が委員の互選により選出された。（規則第30条第1項の規定による）

## 【前回議事録承認】

事務局から提出のあった「平成 19 年度第 3 回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録(案)」について、原案どおり承認された。

前回議事録(案)に関係して、前回会議における委員からの質問のうち、次の会議で回答するとした事項について事務局から説明があった。

①議事録 P2：原価計算資料の経年変化について

→現在、平成 19 年度の原価について、決算取りまとめと並行して計算中であり、これとあわせ、次の審議会でもまとめて報告する。

②議事録 P3：公債費の額について

→3 億 3 千万円を計上している。

## 【今回の協議事項】

本年度第 1 回目の開催にあたり、大川会長から、会の運営方針としては、昨年同様、和気あいあいとした中にも議論を尽くすようにしていきたい旨のコメントがあった。

### (1) 平成 19 年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績

環境整備課長から、平成 19 年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績について、説明があった後、質疑応答となった。

#### ○ 大川会長

前回の審議会で、原田委員から実績を示してほしいという発言（議事録案 P5）があったことを受けて事務局が取りまとめたものであることを念のため補足する。

なお、本日の議題は内容的には審議ではなく説明なので、これに基づく意見交換とした方がいいか。

#### ○ 全委員

異議なし

#### ごみ処理の実績（資料 P1）について

#### ○ 佐藤委員

質問ではなく希望であるが、計画に対する達成率も示していただけるとわかりやすい。

#### ○ 園部主査

事務局としては、今回は平成 18 年度の実績と比べてどうかという趣旨で資料を作成したものであるが、今後、委員のご提案なども踏まえてわかりやすさをこころがけていきたい。

#### ○ 武田委員

集積所ではなく戸別に紙類を回収している業者があるが、そのような方法で回収されたものはこの中には入っていないのか。

○ 吉田課長

古紙回収については、「いわき市古紙回収事業協同組合」が回収し、一定の単価で自治会に売却金を支払うというシステムを持っている。

一方、主に県外が多いようだが、戸別に古紙類を回収し、トイレットペーパーなどと交換している業者もある。これについては回収量までは把握していない。

○ 武田委員

お年寄りにとっては戸別に取りに来てもらうほうがよいだろうが、個人的に利益を得るのがよいのかという疑問もある。そのあたりをどう考えているのか。

○ 大川会長

公の制度と民間事業者の2つの仕組みがある中で、民間の事業者に対して公がどこまで関与できるかという問題でもある。

○ 吉田課長

古紙組合の収集を妨害するような行為があった場合は毅然とした対応が必要だが、独占禁止法等の規定もあり、新たに参入しようとするものを排除することまでは行政として規制できない。

○ 大川会長

公共経済学の考え方からすると、特定の区域は高齢者が多いから民間にまかせるといった政策はなかなか成立しない。一方、高齢者に対して行政が取りにいくという政策は、成立するかもしれないがお金がかかるといった矛盾がある。

○ 飯田委員

この業者はちょうど古紙がたまった月末にタイミングよく集めに来る。集積所に出せば自治会などの収入になるのは知っていたとしても、たまっていると業者に出してしまう人もいる。月に2回古紙回収があれば解決するのではという気持ちはある。

○ 大川会長

高齢者福祉の考え方や民間をコントロールするといった考え方はあるかもしれないが、個々で判断していくということでやむを得ないのではないか。

○ 石川委員

循環型社会の形成に向け、ごみ減量化や資源化など様々な命題があるが、ごみや資源が国内で循環せず外国に行ってしまうという問題がある。また、P1の実績を見るかぎり、ごみ削減はある程度達成されているようにも感じる。今後、本審議会としては、ごみ全般の議論ではなく、生ごみなら生ごみとテーマを絞って深く議論したらどうかと考える。

○ 吉田課長

リサイクル制度については、現在は製品化されるまで検証しない仕組みとなっているが、国において製品化されるまで検証するような制度に改めようとする動きがある。市としては、容器包装リサイクル協会などを通じて現行制度の中で適正に対応しているところであるが、今後の制度改正にも適正に対応していきたい。

また、ごみの減量化については、平成22年度末に950グラム/人・日という目標をごみ処理基本計画で持っているが、まだまだ減量化に取り組まなければならない状況であり、今後、会長や委員の皆様とも相談しながら、審議会を進めていかなければならないと考えている。

- **大川会長**  
私から質問だが、1人1日あたりのごみ排出量のごみの分母はすべてごみ総排出量か。
- **園部主査**  
すべて総排出量である。
- **大川会長**  
1人1日あたりのごみ排出量とリサイクル率は平成22年度の目標を達成できそうな状況にあるか。達成できそうなのか頑張らなくてはいけないのか感触はどうか。
- **吉田課長**  
平成19年度実績の主な要因は、平成19年4月1日から本格実施した事業系古紙の搬入規制や木くずの民間処理施設への誘導によるものであり、この効果が持続するとしても達成するのは難しいのではないかと感触を持っている。
- **大川会長**  
可燃ごみの直接搬入が7,318トン下がっているが、このペースでいけばかなり期待が持てるのでは。
- **吉田課長**  
比例的にいけばそうであるが、なかなかそうはいかないと思われる。
- **大川会長**  
難しいとのことであるので、本審議会としても気を引き締めていかなければならない。
- **大川会長**  
リサイクル率が3.4ポイント向上しているが要因は何か。
- **園部主査**  
平成19年度から、従来最終処分場に埋め立てていた清掃センターの飛灰を資源化する「一般廃棄物ゼロ・エミッション事業」がスタートしており、約4,000トンの資源化が進んだことによるものである。

#### 各種施策の実績と平成20年度の取り組み（資料P2～3）

- **長沼委員**  
生ごみと関連して、補助実績は1年間で186件とあるがいわき市の世帯数は約13万である。予算が少ないのか市民に知られていないのか。普及すれば石川委員発言の問題も解決するのでは。
- **吉田課長**  
周知の方法は資料記載のとおりであるが、予算は約250万円で決算は6割程度である。まだまだ周知啓発に努めなければならないと考えている。
- **石川委員**  
電気式のタイプは電気を使うという問題点がある。
- **大川会長**  
自然が一番いいのだろうが電気式をだめとも言えないだろう。
- **武田委員**  
団地の人などは自然発酵では難しい。団地に大きな処理器を設置するとか、あるいは自治体が生ごみを回収するなどの方法も考える必要があるのではないか。

- **鈴木（正）委員**  
以前コンポストを購入したが、臭いが近所迷惑になるので置き場所に困ったということと、うまく発酵させるにはそれなりに手間がかかるといった問題があった。
- **大川会長**  
実績数が少ないのは事実であるので、他のやり方も含めて研究していくということではないか。
- **吉田課長**  
他自治体の事例など、メリット・デメリットを含めて研究してまいりたい。
- **武田委員**  
生ごみについては、自治体によって堆肥にしたり炭化させたり様々なやり方をしているようなので、研究してほしい。
- **大川会長**  
家庭系の生ごみについての話をしてきたが、事業系の生ごみについては、社団法人いわき産学官ネットワーク協会において経産省の補助を受けるなどして盛んに研究しているのでお知らせしておく。  
次に、紙類分別回収事業で 16,345 トンを回収・資源化とあるが、どのような方法で資源化されるのか。
- **吉田課長**  
古紙組合の事業者によって異なるが、いわき大王製紙に持ち込まれて再生紙になるなどである。
- **山野辺委員**  
ピーク時には約 19,000 トンだったとの説明があったが、昨年度の回収量との差である約 3,000 トンが古紙組合以外に回収されたと考えてよいのか。
- **遠藤係長**  
そうではなく、IT 化の進展により新聞や雑誌などの排出量が減少している状況だと思われる。
- **大川会長**  
P3 に平成 20 年度の取り組みとして、引き続き紙類分別回収事業の実施と資源化施設の運用により資源化を促進していくことと、古紙の搬入規制などの施策を維持し、効果を継続していくとあるが、このポリシーについてご意見・アイデアはあるか。
- **武田委員**  
燃えるごみとして出されている剪定枝を資源として別に回収するといった計画はないのか。
- **園部主査**  
事業者に対し、「木くずの木質チップ化処理施設への誘導」は周知広報により実施しているが、家庭から排出される剪定枝を別に回収する計画は今のところない。
- **大川会長**  
2～3 日たつとずいぶん容積が小さくなるのだが。
- **石川委員**  
集積所に山のように出されても困る。役所に聞けば業者を紹介してくれるはずだ。

○ 武田委員

季節によっては、何軒も同時に出して集積所に大量に集まることもある

○ 石川委員

今は破碎して合板として再生できる。その辺も役所で周知しているはずだ。

○ 吉田課長

事業系一般廃棄物の処理責任は事業者、家庭系は市という法体系の中で、事業者に対してはある程度指導できるものの、家庭系については、現在の9分別に対して一部高齢者の方から細かすぎるとの意見もあり、費用対効果なども考えると、現行の分別方式がベターなのではないかと考えている。しかしながら、再生事業者への誘導については、事業系家庭系を問わず、今後とも周知を図っていきたい。

○ 大川会長

抜本的な技術革新がない限り、これまでの取り組みを続けていくということだろうが、意見として、木質チップ化処理施設への誘導の項目にある「様々な機会を捉え、民間再資源化業者への経済的誘導を促進」についても、平成20年度の取り組みとしてぜひ進めていただきたい。

各種施策の実績と平成20年度の取り組み（P4～5）

○ 大川会長

啓発事業について、感想・ご意見等あれば皆様にご発言願いたい。まず、啓発ビデオは何件ぐらい貸し出されているのか。

○ 園部主査

このビデオは平成13年度に制作したものであるが、これはクリンピーの家で上映はしているもの、昨年度、本庁・支所での貸し出し件数はなかった。

○ 大川会長

親子ごみ処理施設見学会の中で、食用油のリサイクル過程を学習とあるが、「いわき食用油リサイクルネットワーク」は経産省の環境コミュニティ・ビジネスモデル事業でナンバーワンになったおもしろい取り組みである。いわき市は廃棄物関係では先進地と言える。

○ 石川委員

廃食油はリサイクルが進んでいる。市外からの業者も多い。

○ 大川会長

補助金に採択されたときは、廃食油を持っていくとエコポイントに交換するという小名浜のまちづくりの一環としてやっていたが、5年たつてずいぶん形が変わり、現在は切削油のトラスト企画と石炭の愛篤福祉会が別々になっている。

○ 石川委員

せっかく施設をつくっても原料がないという問題もある。

○ 大川委員

他に社団法人いわき産学官ネットワーク協会関係の取り組みを紹介すると、今年度の農水省採択事業で、食堂から出る割り箸の再資源化に取り組むというのがある。ただ、採択されたものの大口の排出者がプラスチック箸に切り替えてしまい、足りない分をどうしようかと今相談しているところである。

○ **武田委員**

割り箸とプラスチック箸はどちらがいいのか悩むところであるが、割り箸は間伐材を使ってつくるものであり、山の手入れをして出た間伐材を使って割り箸を作り、それをリサイクルして紙になっていくという循環ができればそれもいいのではないか。

○ **飯田委員**

市のホームページのアクセス数が増加しており、いわき地域情報総合サイト「いわきあいあい」が開設されたりしているので、ホームページによる啓発にもぜひ努めていただきたい。あわせて、ホームページ内の情報の探しやすさにも工夫していただきたい。例えば掛川市のホームページで「ごみ」で検索すると「ごみのページ」というのが出てきて、ごみに関することはそこでわかるようになっている。市役所全体の問題でもあり簡単にいいかないかもしれないが、ぜひお願いしたい

○ **大川会長**

賛成である。あまり画面を開かなくてもすむ方がありがたい。

○ **園部主査**

実は今年度、市の公式ホームページのリニューアル作業が進んでいる。年度内には、他市の見やすいホームページを参考とした新しい構成に生まれ変わる予定なのでご期待いただければと思う。

○ **石川委員**

地球温暖化防止のための「福島議定書」締結事業が進められており、私も事業所として参加しようと考えているが皆さんはどう考えるか。

○ **山野辺委員**

昨年度までは小・中学校を対象に実施してきたものであるが、今年度からはこれに加えて事業所などにも参加していただき、県民運動として展開することとなったものである。

具体的には、電気及び水道の使用による二酸化炭素排出量の削減目標と取り組み内容を定めた協定を知事と締結し、9月から11月の3か月間実践していただくというものである。

○ **石川委員**

環境意識の向上のためにもぜひ取り組みを進めるべきだと思う。

○ **大川会長**

事務局としてはどうか。

○ **吉田課長**

所管は隣の環境企画課になるが、県といわき市と役割分担をしながら周知に努め取り組んでいくものだと考えている。

(2) **その他**

吉田環境整備課長から、平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画が、前回審議会の審議どおり行政計画として決定された旨あらためて報告があるとともに、実施計画に基づく主な取り組みの状況について報告があった。

①「クリンピーのこえ」作成配布（計画書P4）

→ 9/19に配布予定。

②親子ごみ処理施設見学会の開催（計画書 P4）

→7/31、8/1に「天ぷら油」「ごみ処理」をテーマに実施し、39組84名が参加した。

③ごみ減量化に係る意見交換会の開催（計画書 P5）

→本年度すでに2回開催されており、9/16に第3回目を開催予定。

④レジ袋使用抑制に係る事業者との協定書の締結（計画書 P5）

→意見交換会の中で11月を目途に締結する方向で検討中。

⑤ごみの分け方・出し方ハンドブックの作成・配布（計画書 P6）

→保健委員会、市政モニター、清掃業務関係市職員から意見を聴取して整理しているところであり、できれば次の減量審議会で案を提示し、意見を踏まえながら作成・配布していきたい。

⑥ごみ質組成分析（計画書 P7）

→7月～8月にかけて6品目（可燃、不燃、かん・ペットボトル、びん、小型電器・金属）について調査。さらに来年2月に可燃・不燃の2品目を調査し、報告書をまとめる予定

⑦災害廃棄物に対する対処方針（計画書 P8）

→6/1に「いわき市災害廃棄物処理」策定。9/5にいわき市環境保全センターと「地震等による災害時における生活ごみ収集運搬の協力に関する協定」、いわき市環境整備事業協同組合と「地震等による災害時におけるし尿等収集運搬の協力に関する協定」を締結

⑧いわき市廃棄物減量等推進審議会における審議（計画書 P8）

→年度内に本日を含め3回開催予定。

○ 大川会長

レジ袋についてはいわきでも進んでいると聞いて安心した。ぜひ進めていただきたい。

○ 武田委員

ハンドブックの具体的な配布時期は来年度か。

○ 吉田課長

年内は難しいが今年度内を予定している。